

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達LABO. Proリハ備前（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026年1月28日 ～ 2026年2月19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年2月20日 ～ 2026年2月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応で個々のお子さんをしっかり見ることが出来る。	当日の主担当の職員を決めて配置しており、個々の目標や特性に応じたプログラムを考えている。	評価シートを整理しわかりやすくする。 スタッフ全員が実施できるアセスメントツールを増やしていくための研修や学習の時間を計画していく。
2	・母子同伴で、親御さんに見学いただくので、横にいる職員にいつでも気軽に相談できる環境設定を行っている。 ・保護者の相談を受け入れられる環境が整っている。	状況に応じて必要な職員が相談に対応できるよう配置することを行っている。	ご本人・ご家族へ説明・同意を得たうえで、AIボイスレコーダーや機器による録音と文字お越しなどを活用することでスタッフの作業負担を軽減する。それにより、聞き取ったことをもれなく療育内容に活かしたり他のスタッフにも共有して意見交換しやすい環境をつくり、支援の質の向上をはかる。職員間の情報共有をおこない意見交換をする事でより良い支援につなげていく。
3	保育士、作業療法士、言語聴覚士、看護師など専門性の高いスタッフが常駐している。	利用者に合った担当又は必要に応じて専門職が入り意見交換を行っている。	スクリーニングや専門的な分野の意見交換ができる機会を増やしていき、スタッフの知識や技術を向上する取り組みを行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフによって専門知識や得意な分野が違うので、様々なバリエーションを経験したいお子さんには対応の工夫が必要。	スタッフをローテーションしたり、研修で知識を共有するなどを行っている。	15分研修を定期的に取り入れて個々の療育内容を共有する時間を取ろうと計画している。これによって、個々の得意を他のスタッフにも共有できると考える。
2	個別療育のためコミュニケーションが対大人になってしまう。	個別での利用のため、人とのコミュニケーションの部分で育てていくための難しさ。	利用児童の間で関わる機会を提供したり積極的SSTの課題を提供していく。
3	書類作成のための時間の確保が難しい。	療育での情報共有の時間が長くなり、書類作成の時間が確保しにくい	担当スタッフとの時間を作って作成していく。 書類作成の時間を勤務時間内に設ける。 スタッフの事務処理能力を高めるよう定期的に教育・指導を行っていく。